

## 令和4年度岐阜県青少年美術展少年部の選定評

絵画・デザイン	幼・保	子どもたちが日常で興味のある事や楽しい事象等を題材にして描かれていた。どの作品も子どもたちの素直な気持ちが表現されていて、年齢に応じた筆遣いや色遣い等が見られ、自分たちの世界を形作っていた。今の気持ちを素直に表現し、また自分で描いてみたいという気持ちを大切に見守り、自由に描ける時と場を作っていきたい。
	小学校 低学年	子どもたちの発達段階に即した素直な表現を大切にした作品が多く見られた。その上で子どもたちが対象に興味をいだき、形や色をよく見つめ、夢中で描き込んだ作品、物語の世界に入り込み空想を広げた作品、子どもらしい感性、瑞々しい色遣い、生き生きとした子どもたちの声が聞こえる作品に出会うことができた。
	小学校 高学年	自分や友達、生活の一場面や空想の世界など、児童が描きたいものを生き生きと表現した作品が多くみられた。コロナ禍だからこそ想像力をはたらかせて作品づくりをする大切さを感じさせられた。今後も、児童が描きたいものをどのように表現するか、材料や技法を選択しながら工夫できる題材を期待したい。
	中学校	自分自身を深く見つめた自画像や友達との関係を描いた肖像画から、前に進んでいこうとする中学生の逞しさを感じる。揺れ動く気持ちの中でも、確かなつながりを求めて葛藤している中学生の作品からは迫力を感じる。ICT 機器を上手く活用しながらも、自分自身の目と手を通して、感動を表現していくことを期待したい。
書写	幼・保 小学校 低学年	どの作品からも、作品づくりに向かう作者の真剣な眼差しや息遣いが伝わってきた。この学年の作品は、ひらがなの作品が多いが、線がやわらかく、余白が多いというひらがなの特徴が存分に生かされ、伸び伸びとした印象の作品に仕上がっていた。文字が半紙の枠をはみ出すものがあり、惜しいと感じた。注意をはらいたい。
	小学校 高学年	半紙全体を使い、始筆が丁寧で文字に勢いのある作品が多かった。筆運びが力強く、墨量も豊かな作品が多く見られた。 書字と同等に名前の配置や一画一画を丁寧に仕上げた作品は堂々とした落ち着きを感じられた。最後まで気を抜かないことを大切にしたい。
	中学校	流れるような行書の筆遣い、どっしりとした楷書の筆遣いによる秀作が幾つもあり、練習の跡が感じられた。画数、文字数とも多くなるため、文字の配置に苦しみ、最終的にバランスをとりきれない作品もあった。また、行書については、筆遣いに力の差が見られ、それが作品の優劣につながるが多かった。